



『食卓の向こう側』を大切な人に

「同じことを書いても農なら2%しか読んでくれないけど、食なら100%！」「読者を巻き込みうねりを作れ！」「社会を揺さぶる連載を書け!!」という非常な意気込みと熱意をもって2003年に開始されたのが西日本新聞の長期連載『食卓の向こう側』。これがブックレットになり、そしてコミックとして『食卓の向こう側(コミック編)+健幸は口から』(不知火書房)が刊行され、その続編の『食卓の向こう側(コミック編②)』がこの4月に出され、早速拝読した▼コミックはともに、作画は魚戸おさむ、原作は元西日本新聞社の記者で小農学会の世話人でもある佐藤弘さんと渡邊美穂氏。いずれも前半はコミック、後半はこれについての解説編となっている。

①は5つ、②は7つ、あわせて12の話で構成される。これを順にあげておくと、「うんこ」「青春期内科」「乳と血」「火星人」「いのち」「手首の運動」「子どもたちは今・・・」「現代型栄養失調」「骨」「身土不二」「菌ちゃん野菜」「半歩先宣言」となる▼いずれの話も、添加物、糖分の摂取過剰等も含めた食の乱れを修正していくべく各所で奮闘している人たちへの、シャープな問題意識をもつての取材を基に、本質に肉薄している。そしてこれをコミックで平易に理解を可能にするとともに、後半の解説であらためてじっくりとこれを咀嚼できるようにになっているなど、実に配慮が行き届いている。その基本にある思いは「医は食に、食は農に、農は自然に学べ」に凝縮され、「食卓の向こう側」には「身土不二」と「菌ちゃん農法」が置かれている▼すべての人、特に結婚前や子育て中の女性に是非読んでもらいたい本だ。手元に何冊か置いて、結婚する人へのプレゼント等として配布しようかと考えているところだ。

(土着菌)